

和歌山県野菜振興計画（案） 概要

目標：収益性の高い魅力ある野菜産地の形成

計画期間：2026～2030年度

1 本県野菜生産の現状

栽培面積 1,308ha(2023年)：2018年から421ha(△24%) 減少
産 出 額 111億円(2023年)：2018年から34億円(△23%) 減少
農 家 数 3,640(2020年)：2015年から817(△18%) 減少
施設整備 簡易なパイプハウスの施設面積は約5割
※ 栽培面積と産出額は、主要19品目の値を合計したものであり統計公表値とは異なる

2 野菜振興に向けた取組方針

1) 気候変動に対応した生産技術の導入と生産基盤の強化

- ・対策技術の開発及び優良品種の育成
- ・高温対策資材、機器の導入
- ・耐風性、耐暑性ハウスの導入

2) 収益性の向上

①生産性の向上

- ・スマート農業技術の導入による高品質、多収化
- ・換気やかん水など栽培管理の自動化による省力化

②コスト削減

- ・省エネ技術、設備の導入

③販売強化

- ・直売所やe コマースの活用など、多様な販売を支援

3) 担い手の育成・確保

①大規模経営体の育成

- ・地域計画に基づいた農地の集約化
- ・栽培管理の自動化等による省力化
- ・農繁期の労働力確保の支援

②新規就農者の確保、育成

- ・産地受入協議会等による就農支援

4) 水田農業の推進と裏作の拡大

- ・機械化一貫体系の導入
- ・農作業受託組織の育成

1経営体あたりの
経営面積の拡大

3 栽培面積・産出額の目標

2023（現状） 2030（目標）
栽培面積 1,308ha 1,214ha
産 出 額 111億円 115億円

	栽培面積 (ha)		産出額 (億円)		平均経営面積 (a/経営体)	
	2023年	2030年	2023年	2030年	2020年	2030年
野 菜 全 体	1,308※	1,214※	111※	115※	24.5	25.5
ト マ ト	76	71	19	20	19.5	20.3
い ち ご	27	25	14	16	13.6	14.3
えんどう(施設)	62	59	21	21	12.7	13.5
(露地)	136	125			11.0	11.4
キ ャ ベ ツ	172	162	5	5	25.3	26.7
は く さ い	122	115	4	4	19.6	20.6
ブロッコリー	89	84	2	3	12.6	13.3

※ 栽培面積と産出額は、主要19品目の値を合計したものであり統計公表値とは異なる

4 品目別振興方針

1) まめ類

- ・自動換気装置の導入による高品質、多収化（空気さや対策）
- ・省力化が期待できる早生でやさな短節間品種の育成
- ・高温下でも収量性の高い品種の育成

2) 果菜類

- ・ハウスの高度化や環境制御技術の導入による高品質、多収化
- ・いちご「まりひめ」の親株の安定供給体制の整備

3) 葉菜類

- ・うね立て同時施肥機、定植機など機械化一貫体系の導入推進
- ・ドローン防除等作業受託組織の育成

4) 根菜・茎菜類

- ・定植機、収穫機など省力化機械の導入推進
- ・県産種しょうがの生産拡大